

平成27年 第3回政策討論会要点記録 (第一分科会：文教民生グループ)

開催日時：平成27年9月17日(木)午後3時より

参加委員：井上源次座長・西田武史副座長・井舎英生・澤田和代・
南加代子・松本妙子・中井良介・井上孝三郎

【今回の概要】

「小中一貫教育について」本市の現状を把握するため、各自が調査した内容について討論を行う。

【委員意見】

- ・学校の小規模化による様々な問題を改善するため、当該校の地域住民、保護者の意見を尊重しながら、小中一貫校を含めた根本的な対応について教育委員会では検討を進めているようですが、現状は中一ギャップ解消を図ったり、生徒指導上の課題を解決する為、小中の連携、協議など小学校高学年教員と中学校教員とが小中の接続を図っており、小中各学校において学校の教員の連携また地域、保護者との連携が充分に取れているのか再確認する必要がある。現実、学校現場においては、学習指導、いわゆる授業時間以外の教員の仕事が多岐に渡り学校内の改善の余地があるのではないかと感じる。教職員にも余裕を持っての勤務体系の確立など、小中学校教員の合同研修を活かして貰いたい。
- ・某小学校を訪ねてヒアリングの結果報告は次の通りです。
 - 最近の5,6年生は身体的には中学1,2年生の域である。
 - 既に小学校でも中学校と同様に音楽、理科、家庭科などは教科担任制としている。
 - 中学校になると学級担任一辺倒ではなくなるので、ある面での中一ギャップは解消できる。
 - 中学生になると授業は面白くないと言う生徒がいるが、何故か小学校は皆で考えて習う習慣があるが、中学生になると高校受験があるので一人で学習する習慣である。
 - 社会科は組織的な対応を要する教科であるが、一部児童には「どう

せ僕らはアカン」と言って対応できない児童がいる。（心が満たされていない状態である。）

○食事が非常に大切であり、心の満腹感につながるが、この点の更なる改善が必要である。

また、自分の意見として、教育委員会との意見交流を行いたいと思いますがいかがでしょうか。

- 小中連携はとても大切なこと。以前、中学一年生を担当したとき、入学式も始業式も欠席する生徒がいて、登校するよう働きかけた。しかし、どの生徒のことが何もわからず、つながりをつくるよう生徒や親と何度も話しをしたり、小学校の先生とも相談したが、うまくいかなかった。（その生徒は、中学生の頃から父について働きに出るようになり、父の仕事を継いでいまも元気に働いている）
- それぞれの地域でいろんな事情がある。モデル校をつくって、できるところから進めていけばよい。
- 本市における建物の小中一貫教育は、しばらくの間は難しいとしても、小中一貫の連携は、工夫次第だと思います。岸和田はだんじり祭り等で、地域の繋がりが強いから、協力してもらえないかと思えます。中学校教師が、小学校に行って導入部分だけでも教えてあげる出張授業などをしてはどうか。今度、中学校へ行った時に「あの先生や」とか、「こういう内容するんや。」とか、興味を持つのでは。また、行事を小学校、中学校一緒にする。地域の人のも力も借りて。クラブ活動の見学にも来てもらったらどうか？後輩に見てもらうのは嬉しいのでは。教員同志が意見を共有する。良い例も悪い例もたくさん共有する。新聞に小学校の暴力過去最高。「学校の荒れ」低年齢化示す。ゲーム、携帯でコミュニケーション能力低くなっている。言葉で伝えない分、手が出てしまう。中学に行ったら、どう対応していくか？
- 未来新聞を作成してはどうか。「読む力」「聞く力」は学力向上につながる。特に新聞を読む学生の学力アップは、如実にデータとして上がってきている。そこで、岸和田市広報があるように、たとえば、各、小中学校での様子、クラブなどで活躍している姿など、子供達を宣揚できる新聞を作成し、学校などで見ていく事により、様々な切磋琢磨がされるようになり、「読む力」から「行動をおこす力」に迄、発展していくのではないかと思う。又、岸和田市に対する郷土愛も芽生え

てくると考える。

- 地元の市民協で、中学校の現状などを聞きました。中学生が集団で授業に出席せず小学校の通学路でたまっているのが、小学生に妙なあこがれを持たせないようにと中学校に申し入れをされました。夜は市内複数の中学校の生徒が集団でたまっている現状があります。授業については、トイレに行って教室に帰ってきた生徒が「わからない」というと20分位前から遡って教師が説明する場面が頻繁にあり、他校に比べて遅れていく現状があります。わからない生徒には後で時間をとる等してフォローしていくこと。そして、子どもが「学ぶことの楽しさ」を感じられる魅力ある授業づくりが求められていると思います。地域の保護者の方の意見ですが、小中一貫校も統廃合とセットなら賛成しかねるが、子どもを中心にした小中学校の先生同士の連携や、生徒の交流は、もっと活発にしてほしいということでした。
- 小中一貫教育について、本市の現状把握をするために地元の校区を中心に城内小学校、岸城中学校、東光小学校、東光幼稚園、光陽中学校に行き調査を行った。市教育委員会が言う様には、連携と言うレベルには程遠く、少しだけ関わっている様と感じた。連携の中身はというと、中学校体育教員が校区内小学校にそれぞれ年間10時間体育指導を行っていたり、校区内教員同士の分科会、生徒会が主体となってクラブ活動の部員と共に地域の清掃活動や幼稚園訪問などであった。文部科学省の報告書にも見られるように、昔の子どもたちに比べると今の子どもたちは3歳から5歳肉体的にも精神的にも成長が早くなっており、昔の教育環境とは大きく変わってきている。今の時代に応じた教育を行っていくべきである。

【その他】

- 次回は10月20日(火)13時から
- 次回、問題と課題の抽出